

昭和初期 新聞ジャーナリズム 論集 全3巻

◆監修 有山輝雄 東京経済大学教授

昭和6～8年にかけて発行された『新聞全集』を復刻。

新聞社重役ら12人が、新聞経営、広告、新聞史など、当時の新聞ジャーナリズムについて書き下ろしたもので、昭和初期の新聞研究、メディア研究の水準を示す貴重な資料。

「英國新聞論」など、海外新聞を扱った巻も含まれており、日本のみならず、海外の新聞状況も知りうる書。

Anniversary
30th
since 1975

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU

東京経済大学教授
有山 輝雄

刊行のことば

本「新聞全集」は、式正次が主宰していた新聞之新聞社が、一九三二（昭和七）年から三三（昭和八）年にかけて刊行したもので、全十二巻からなっている。各冊いずれも一二〇ページ前後と決して大部な書物ではないが、昭和初期新聞界の第一線で活躍し、かつ業界では理論派と目されていた新聞人や学者が執筆している。テーマも、欧州の新聞史や新聞経営、広告、印刷技術など、他の新聞論ではみられない多面的でユニークな構成であり、当時の新聞界の指導的人物の新聞観・新聞企業観を知るうえできわめて貴重な冊子ばかりである。

このような全集が、一九三〇年代前半に刊行され、しかもそれまでの新聞論とはかなり異なった視角から新聞を論じようとしたのには、この時期の新聞企業の問題状況が表れている。

一九二〇年代の半ば以降、日本の新聞は大きく膨張した。一九二四（大正十三）年元旦、『大阪朝日』と『大阪毎日』がそれぞれ一〇〇万部突破を大々的に宣伝した。さらに、関東大震災によって東京系各新聞が深刻な打撃を受けた状況を経た後、朝日新聞社と毎日新聞社は大規模な販売拡張戦を挑み、それまで『報知新聞』『時事新報』『国民新聞』『東京朝日』『東京日日』の五大新聞といわれた東京の新聞界を『東京朝日』と『東京日日』の二大新聞独占に再編成した。

また、この頃、都市を中心とする消費経済の活発

化によって広告活動が拡大し、有力新聞社では広告収入が全収入の約半分を占めるほどになった。それまで販売に頼っていた新聞社の収入は、販売と広告の二本立てになり、両者の好循環による経営拡大の構造が形成されてきたのである。

必然的なことであるが、しばしば業界内の組織や人間にあまりに密着しすぎて、その情報に偏りが生じがちなのも業界紙の通弊である。しかし、当時は、大学等のアカデミズムの世界に新聞について専門的に研究する機関はなく、また新聞業界の問題を討論し、各種データや情報を整理し公表する業界団体等も存在していなかったため、業界ジャーナリズムの果たす役割は大きかったのである。業界紙に各新聞社の有力幹部などが執筆し、啓蒙的役割も果たしていた。

また、出版界では、『主婦之友』などの婦人雑誌が部数をのばし、さらに講談社の『キング』が一九二四（大正十三）年十二月に創刊された。さらに一九二六（大正十五）年十月に改造社の『現代日本文学全集』が刊行されたことをきっかけとして、様々な出版社が大規模な広告宣伝活動によって予約本全集を次々に販売する円本ブームが出現した。

ただ、当時の新聞業界紙の実態を知ることがは難しく、図書館等での新聞保存も限られている。例えば、一九二七年の電通『新聞総覧』にあげられている東京の新聞リストのなかで、業界紙業界誌と推定される新聞は、『新聞之日本』（日刊）、『ジャーナリズム』（月刊）、『新聞解放』（不定期）、『新聞之新聞』（日刊）、『新聞販売界』（月刊）、『新聞及新聞記者』（月刊）、『新聞研究所報』（日刊）である。

しかし、この時期に、電波を利用した、まったく新しいメディアとしてラジオ放送が開始された。新聞は、出版や放送などのメディアとの競合関係におかれ、新聞というメディアの相対的特性を考えなければならぬ状況でもあったのである。

なかでも、有力であったのが、式正次の『新聞之新聞』と永代静雄の『新聞及新聞記者』、『新聞研究所報』であった。どちらも、業界紙にありがちな、業界の人事、うわさ話だけでなく、広告・販売等のデータや啓蒙的な新聞論・新聞経営論等を載せているところに大きな特色がある。

（解説より抜粋）

全3巻の収録内容

※表示定価には消費税が含まれています。執筆者の肩書きは本書底本刊行時のものです。

第1巻

ISBN-9433-169-0

◎定価1,953.00円

英国新聞論

寺田四郎〔著〕
報知新聞社副社長法学博士

本書は、「はしがき」にある通り、『大英百科全書』第14版第16巻に掲載のサー・ロバート・ドナルド（前「デリー・クロニクル」編集長）の「新聞（Newspaper）」の項目に若干の修正を加えたもの。これは、新聞の始原から説き起こし、新聞が政治権力と闘い、自由と独立を達成していくという典型的なイギリスの「ホイッグ史観」による新聞史である。寺田は、一九三六（昭和十一年）にやはり新聞之新聞社が刊行した「新聞叢書」でもその第一輯

に『英国新聞小史』を執筆している。

■寺田四郎（一八八六年〜）は、東京帝国大学法学部の出身。在学中は雄弁会で活躍し、当時大学職員であった野間清治が発刊した雑誌「雄弁」にも関係していた。卒業後、弁護士を開業、また欧米に留学を経て国際法等で業績をあげ、法学博士の学位を得た。また、一九三〇（昭和五）年、報知新聞社の副社長に迎えられた。

フランス革命前後のフランス新聞の動揺

喜多壮一郎〔著〕 早大新聞学教授

■喜多壮一郎（一八九四年〜一九六八年）は、早稲田大学法学部出身で、ジョンズ・ホプキンス大学、プリンスストン大学に留学し、帰国後早稲田大学法学部、第一高等学院で教鞭をとった。その後、アメリカのミズリー大学、ウィスコンシン大学の新聞学部、ドイツ諸大学の新聞学講座を見学して帰国し、早稲田大学政経学部新聞学講座を担当することになった。日本における新聞学研究の先駆者の一人である。この時期、『新聞展望台』（一九二九年 春陽堂）、『ジャーナリズムの理論と現象』（一九三三年 千倉書房）といった新聞学の著作を著している。一九三六年に衆議院に当選し、代議士としても活動した。

生きた新聞廣告論

飯守勘一 [著]
東京日日新聞社広告部助役

■飯守勘一（一八八五〜？）の学歴は不明だが、関西の広告代理業京華社の東京支社に入社、その後味の素広告課を経て、馬関毎日新聞社の営業部長、専務理事を務めた。さらに中山太陽堂に入り、広告を担当した。中山太陽堂（現フルベール化粧品）は、この頃、「クラブ洗粉」などを販売し有力な広告主であったが、その第一線で広告実務経験を積んだのである。その後、同社の理事・事業部長などを務め、一九三〇年に東京日日新聞社の広告部長に就任した。広告関係の著作も多く、当時の広告関係の講演会などには度々登場している。

新聞経営論

刀裨館正雄 [著]
東京朝日新聞社販売部長

■刀裨館正雄（一八八八〜一九四三）は、神戸高等商業卒業。川崎銀行を経て、勝田汽船に入社して、主に調査部関係を経験した。一九二〇年に同社の命により欧米を視察し、帰国後は営業部長に就任した。一九三三年に退社し、東京朝日新聞社に入り、販売部長を務めた。刀裨館は、新聞の販売担当者としてはきわめて異例の経歴であるが、前述したように、この時期は新聞企業化が進んでおり、新聞社は近代企業的の知識や経験をもつ人材を営業部門で必要としていたのである。彼は、本書以外にも、『新聞経営研究』（一九三六年 三省堂）といった著作もあり、業界紙等に新聞販売論、新聞経営論を多く執筆している。

新聞は斯くありたし

矢野正世 [著]
花王石鹸取締役

独自の視角からの新聞論。彼が書いているのは、東京、大阪、地方の有力新聞への要望である。矢野自身の新聞経験、特に営業畑での豊富な経験にもとづいて、各新聞を観察し、その論評を「要望」というかたちで述べている。無論、事情通であるだけに、かえって婉曲な言い方になっているところもあるが、当時の新聞時評として興味深い。

■矢野正世（一八八九〜？）は、東京毎夕新聞記者となり、地方通信部長、支配人を歴任。萬朝報社営業局長、読売新聞社営業局長などを務めた後、花王石鹸長瀬商会総支配人に就任するという変わった経歴である。

一九四〇年の新聞

千葉亀雄 [著]
東京日日新聞社学芸部長

■千葉亀雄（一八七八〜一九三五）は、著名なジャーナリストであるが、山形県出身で苦学して上京し、『文庫』への投稿などを繰り返していくうちに、『文庫』の記者となった。東京専門学校に学んだが、中退。『日本及日本人』記者となり、文名をあげた。一九〇六年、国民新聞社に移り、社会部長として腕をふるったが、徳富蘇峰と合わず退社、時事新報社に入り、その後は多くの新聞社で主に社会部記者として活躍した。社会批評、文芸批評など幅広い評論活動を展開したが、大正後期からは特に大衆文学の発達に力をつくした。

新聞広告の諸問題

松宮二郎 [著]
三越広告部長

■松宮二郎（一八八三〜？）は、三越の広告部長を長く努めた人物である。彼は早稲田大学商学部卒業、帝国鉱泉を経て、三越に入社し、広告を担当した。消費文化の先頭にたつ百貨店業は広告宣伝活動に最も力を入れていた業種であり、その広告担当者は広告界全体の指導的位置にたつことになったのである。松宮は、一九三一年に三越を退社したが、日本広告連盟等広告業界の役職につき、いくつかの大学で広告論を講義するなど広告教育に尽力した。

ロンドンタイムス史論

坂口二郎 [著]
福岡日日新聞社論説部

■坂口二郎（一八八〇〜一九四九）は、福岡県出身、早稲田大学文学部国語漢文及び英文学科卒業。初めは読売新聞社記者となったが、『萬朝報』に転じ、斯波貞吉編集局長の下で次長として活躍した。一九二〇年同社編集局の内紛に連座して退社。その後、欧米を巡遊し、帰国後、中央新聞社に入り顧問となった。関東大震災後、『萬朝報』に復帰し、編集局長に就任、同社の挽回にあたった。一九二六年、萬朝報社を退社し、福岡日日新聞の在京客員（論説担当）となり、筆をふるった。かたわら、ジャーナリズム論を雑誌等に発表していたが、本書もその一つである。

第3巻

ISBN 8433-1651-2

◎定価 19、530円

新聞ライフ四拾年

築田欽次郎 [著]
中外商業新報社社長

■築田欽次郎（一八七五〜？）は、広島県出身で、専修大学卒。一八九九年中外商業新報社に入り、外勤記者として活躍した。一

九一年、取締役理事にあり、一九一四年には、専務取締役兼主筆となった。一九一五年、前社長が辞任したため専務のまま社長職を代行し、同社の経営にあたった。一九二五年から一九三三年まで社長を務めた。築田は、『中外商業新報』が相場の中心の新聞から様々な経済報道を掲載する経済新聞に拡大した時期の経営者である。

新聞印刷工場論

江崎達夫 [著]
東京朝日新聞社技術部長

新聞の企業化は、当然大量生産大量印刷が重要な要件である。大正期から各社はこぞって欧米から新しい印刷技術を導入した。ただ、それは企業秘密的な部分もあって、印刷関係の雑誌以外のところで論じられることは少なかった。本書は、その点でユニークである。

■江崎達夫（一八九七〜？）は、東京高等工業学校を卒業し、三菱造船に勤務した後、一九二三年に東京朝日新聞社入社し、技術部長等を務めた。

新聞發生史論

小野秀雄 [著]
帝大新聞研究室講師

■小野秀雄は、わが国における新聞学・新聞史研究の開拓者である。東京大学文学部独文科を卒業後、『萬朝報』、『東京日日新聞』の記者となった。かたわら、新聞史の研究に志し、一九二一年（大正十一年）年に『日本新聞発達史』（大阪毎日新聞社）を著したが、日本の新聞史に関する最初の通史である。その後、ドイツに留学し、新聞学を学んだ。帰国後、ドイツ新聞学を導入した新聞学研究に従事するとともに、吉野作造らと明治文化研究会を拠点に新聞史の史料発掘にあたった。また、東京帝国大学文学部新聞研究室の開設に尽力するなど、新聞学研究組織化の中心人物であった。戦後、東京大学新聞研究所設立にともない、初代所長。日本新聞学会（現日本マス・コミュニケーション学会）初代会長など学界の要職を歴任した。

金解禁から再禁止迄

小汀利得 [著]
中外商業新報社経済部長

他の巻とは異なり「新聞界種々相」という副題がついているが、新聞ジャーナリズム論ではなく、経済解説といった内容である。「序」によれば、書く内容に窮した小浜が、自分の得意とする経済問題を執筆したようである。

■小汀利得（一八八九〜一九七二）は、島根県出身。早稲田大学卒業。一九二一年（大正十一年）年、中外商業新報社入社。経済部長、編集局長などを歴任した。戦後は、日本経済新聞社顧問や国家公安委員などを務めた。また、評論家細川隆元とのテレビ番組「時事放談」などの評論などでも活躍したことでもよく知られている。

昭和初期新聞ジャーナリズム論集 全3巻

【監修】 有山輝雄

A 5 判上製／函入

●揃定価58,590円(本体55,800円) ISBN4-8433-1648-2 C3336 2005年5月刊行

本書の特色

- 昭和初期新聞界の第一線で活躍していた新聞人や学者が執筆。
- 新聞が言論や報道のみでなく、営業や製作、広告に大きな比重を持ち始めた当時を反映した内容。
- 欧州の新聞史や新聞経営、広告、印刷技術など、他の新聞論ではみられないユニークな構成。
- 当時の新聞界の指導的人物の新聞観・新聞企業観を知るうえできわめて貴重。

全3巻の構成

※執筆者の肩書きは底本刊行当時のものです。

- ◆第1巻◆ ・定価19,530円(本体18,600円) ISBN4-8433-1649-0 C3336
- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 英国新聞論 | 報知新聞社副社長法学博士 寺田 四郎・著(新聞之新聞社1931.06刊) |
| フランス革命前後のフランス新聞の動搖 | 早大新聞学教授 喜多壮一郎・著(新聞之新聞社1931.07刊) |
| 生きた新聞廣告論 | 東京日日新聞社広告部助役 飯守 勘一・著(新聞之新聞社1931.09刊) |
| 新聞經營論 | 東京朝日新聞社販売部長 刀禰館正雄・著(新聞之新聞社1931.10刊) |
- ◆第2巻◆ ・定価19,530円(本体18,600円) ISBN4-8433-1650-4 C3336
- | | |
|------------|-------------------------------------|
| ロンドンタイムス史論 | 福岡日日新聞社論説部 坂口 二郎・著(新聞之新聞社1931.11刊) |
| 新聞は斯くありたし | 花王石鹼取締役 矢野 正世・著(新聞之新聞社1931.12刊) |
| 一九四〇年の新聞 | 東京日日新聞社学芸部長 千葉 亀雄・著(新聞之新聞社1933.05刊) |
| 新聞廣告の諸問題 | 三越広告部長 松宮 三郎・著(新聞之新聞社1932.02刊) |
- ◆第3巻◆ ・定価19,530円(本体18,600円) ISBN4-8433-1651-2 C3336
- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 新聞ライフ四拾年 | 中外商業新報社社長 築田欽次郎・著(新聞之新聞社1933.03刊) |
| 新聞印刷工場論 | 東京朝日新聞社技術部長 江崎 達夫・著(新聞之新聞社1932.07刊) |
| 新聞發生史論 | 帝大新聞研究室講師 小野 秀雄・著(新聞之新聞社1932.08刊) |
- 関連企画 2005年8月刊行予定 金解禁から再禁止迄
- | | |
|-------------|-------------------------|
| 中外商業新報社経済部長 | 小汀 利得・著(新聞之新聞社1932.11刊) |
|-------------|-------------------------|

日本新聞 占領期新興新聞集成 第I期 九州・沖縄 編

【監修】 有山輝雄・井川充雄 CD-ROM版／DVD-ROM版 2005年8月刊行予定

◎戦後の言論の自由と民主主義の息吹を伝える全国各地の様々な地方紙を集成!

●CD-ROM版 全28枚+システムディスク1 ●DVD-ROM版 全8枚+システムディスク1 各揃予価619,500円(本体590,000円)

Anniversary
30th
since 1975

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
<http://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp

関連企画

新聞広告総覧 全9巻

【監修】有山輝雄

●揃定価113,400円(本体108,000円)

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日	
	昭和初期 新聞ジャーナリズム論集 全3巻	
	●揃定価58,590円(本体55,800円) ISBN4-8433-1648-2 C3336	
	お名前	セツ
ご住所	TEL ()	

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



05.05/01.5000.H